

M 氏邸訪問記(2015.4.22)

1. はじめに

M 氏邸訪問は昨年6月以来で、今回の主な目的は、①iPhono の L/R2 台接続の試聴、②パワーリベラメンテの試聴、③アナログソースの DA-3000 による DSD 録音、および④インフラノイズのマスタークオリティ盤の試聴で、前回同様、A 氏と同伴です。この目的のため必要な機材とマスタークオリティ盤を持参しました。

2. M 氏邸のシステムの概要

基本的には昨年の訪問記の記載内容と同様ですが、昨年はまだ使いこなしていなかった DA-3000 を今回使ってみようということです。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2014/01/b012de8c3efd8fe571f4083a6fffc316.pdf>

3. 試聴の経過

試聴は、まずピアノの話が出たところで、GPS-777 から外部クロックを入れたマランツの SA7-S1 による CD の試聴から始まりました。プレイエル、Fazioli、エラール、ベヒシュタイン、ブルートナー、ボールドウィンなどを使用した名演奏が M 氏の各機種種の解説と演奏家の蘊蓄を交えて次々とかかりました。驚いたことに、M 氏のシステムはこれらのピアノの機種種の音の違いが鮮明に捉えられ、中でも、プレイエルとベヒシュタインの美音には陶酔させられました。このように、ピアノの音色が説得力を持って聴くことができたことは、スタンウェイがあたかも電気ピアノのように聴こえてしまう昨今のハイエンドとは大きく趣が違います。



ここで、インフラノイズのマスタークオリティ盤、宇野功芳指揮「運命」の試聴をお

願いましたところ、このマスタークオリティ盤はまるでマイクで拾った音そのまま出てくるようで、演奏の様子が手に取るように分かるという感想が出ました。

次に、SONY の TTS-8000 にアームは FR64FX を組み合わせ、ベントマイクロのカートリッジから ZONOTONE のフォノケーブルで引き出し、iPhono に入力しているアナログ再生を聴かせていただき、持参した iPhono を追加して、L/R 独立 2 台使用を試みてみましたところ、広がり感、奥行き感が出てきたとの声が上がりました。



この状態で、iPhono の出力を DA-3000 に入力し、5.6MHzDSD のフォーマットで録音を試みました。アナログダイレクトの試聴、DA-3000 により 5.6MHzDSD に変換後のモニター試聴、フラッシュメモリーに録音した 5.6MHzDSD 音源の再生の試聴を順次行いましたが、この順に鮮度は若干落ちていくもののアナログの雰囲気は維持されていました。今回は DA-3000 の内部クロックを使用し、GPS-777 からの外部クロックは使用しませんでした。GPS-777 からの外部クロック入力を録音と再生に使用するとさらに良い状態で録音、再生できると思われます。

この状態でアナログからフラッシュメモリーに録音した 5.6MHzDSD 音源の再生時において DA-3000 の電源ケーブルをパワーリベラメンテに変更してみますと一挙に再生音の鮮度が上がりました。

さらに CD の再生に戻って、SA7-S1 の電源ケーブルをパワーリベラメンテに変更してベヒシュタインの演奏をかけてもらったところ、ベヒシュタインの音にさらに磨きがかかり得も言われぬ美音が飛び出してきました。

4. まとめ

当初の目的である、①iPhono の L/R2 台接続の試聴、②パワーリベラメンテの試聴、③インフラノイズのマスタークオリティ盤の試聴は拙宅と同様の結果が得られました。アナログソースの DA-3000 による DSD 録音も条件設定ができましたので、かずかずのアナログの銘盤をお持ちの M 氏が録音操作に慣れられて、良い DSD 音源を確保していただくことを期待しています。

以上